ISSN 1882-0514

総合資料館だより

2008.1.1　No.154

▲「富貴栄花」と「三元福寿」　吉田文庫現物資料より

中国の「年画」

「年画」は中国の民間における伝統的な絵画芸術の一つで、新年（春節、旧正月）を迎える際に、吉祥多福の祈りをこめて門口や屋内に貼る木版の装飾版画です。めでたい図像を単純な線と派手な色彩で描いた「年画」の表現には、黄土の大地にたくましく生きる人々の生活感情が濃密に感じられ、中国悠久の伝統的習俗などがうかがえます。

「年画」は毎年新しいものに替えたため、中国では古いものは残っていませんが、日本には江戸時代に明末、清代の年画が多くもたらされました。

年画の図像は、中国人の率直な幸せへの願望が、寓意や象徴などの手法で描かれています。例えば、「富貴栄花」の右上にある牡丹は、その豪華な花容から百花の王とよばれ「富貴」の象徴とされています。また、「三元福寿」の左上にある石榴（ざくろ）・桃・みかんは、三つの丸い実ということで「三円（ユエン）=三元（ユエン）」を表しています。三元とは科挙の3段階それぞれでの主席合格者の総称です。丸い果物三つで「三元及第」、つまり科挙合格を意味し、立身出世の願いが込められています。

目次

中国の「年画」…… 1
文献課の窓から「図書閲覧室の本の並べ方」…… 3
歴史資料課の窓から「陵墓管理と京都府」…… 6
「東寺百合文書」第5巻を刊行、友の会事務局から　他…… 8
平成20年知事年頭あいさつ…… 2
企画展「地域をむすぶ－京都府の交通史－」…… 4
最近の収集資料から…… 7

平成20年知事年頭あいさつ

「京都」を日本の「未来の扉」に

京都府知事　山田　啓二

府民の皆様、新年おめでとうございます。穏やかな新年をお迎えのことと思います。

ただ振り返りますと昨年は、景気は好調といわれたものの、実感として格差問題に代表されるように府民の暮らしに直接反映されたとは言い難く、また痛ましい事件が絶えないなど、身近な生活における安心・安全の確保の大切さを、改めて痛感する一年でもありました。

京都府としても、昨年はまず府民一人ひとりが、できる限り安心して日々の生活を送れるよう、府の北部地域を中心とした医師の確保対策、乳幼児医療費の無料化拡大など地域での子育て応援、安定的な雇用実現を目指した常用雇用の確保対策、ものづくりをはじめとする中小企業への支援、交番の再編整備による警察力強化等に、全力を挙げてまいりました。

さらには、府民の皆様の力が最大限に生かされるよう、「地域力再生元年」と位置づけ、商店街振興や都市農村交流から子育て支援、環境対策、犯罪防止まで、身近な問題に取り組む府民の皆様を支援する「地域力再生プロジェクト」を積極的に展開してきたところです。

本年は、こうした試みの上に立って「安心・安全、希望の京都」を目指す「未来の扉」を開けるため、もう一度原点に帰って府政の点検を進め、府民視点に立った府庁の行財政改革をしっかりと実行していかなければならないと思っております。

さらに、地域力再生のセカンドステージとして、私どもも積極的に現地・現場に出向き、府民の皆様とのネットワークを創り上げる中で、府民の皆様が主役の新たな行政を確立するという住民自治の「未来の扉」を開け、引続き教育・医療・福祉・産業・雇用・環境・文化等の多岐の分野にわたり、京都の新しい魅力や価値の創造に取り組んでまいります。

「未来の扉」は、もちろん地域力だけではありません。京都には世界に誇る「文化」、そして世界に発信し続けてきた「環境」に対する思いがあります。

今秋は、世界に誇る古典文学の華ともいえる「源氏物語」の千年紀（ミレニアム）にあたります。今ひとたび、日本文化の原点の一つであるこの汲めども尽きない素晴らしい古典の水脈から、現代の日本が失いかけている大切なものを汲み上げる機会にしたいとこの一年、産学公を挙げ様々な取組が展開されます。平成23年には京都で「国民文化祭」も開かれますが、日本の文化の「未来の扉」を開けるためにも「京都」の力が求められていると思います。

そしてこの6月には、京都迎賓館等を舞台に「G8サミット外相会合」が開催されます。ポスト京都議定書に向けた地球環境問題などの重要テーマが話し合われ、北海道の首脳会合と相俟って、ここ京都の地から全世界へメッセージされていくことになります。そのためにも京都市はじめ市町村と連携し、環境を守り景観を維持する試みをさらに充実させなければなりません。ここにも環境の「未来の扉」があります。

私たちの京都府には、北から南まで、豊かな自然・環境との親和の精神、世界に誇る文化・伝統、独創的な人材や優れたものづくりの技が今も脈々と息づいています。改めて私たちは、「京都」が誇りとする文化と環境に思いを馳せ、地域における信頼と絆をより一層強めていくことによって、京都の「未来の扉」を開いていかねばなりません。

「安心・安全、希望の京都」づくりのため、本年も全力で京都府政を推進してまいりますので、府民の皆様の積極的なご参加を心からお願いいたします。

結びにあたり、この一年の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

文献課の窓から

図書閲覧室の本の並べ方

今回は、閲覧室の図書の並べ方についてご説明します。

館内の蔵書検索端末OPACや当館ホームページから蔵書を検索されると、請求記号という欄があります。この請求記号は図書の背に貼ったラベルにも書かれていて、これに沿って図書が並んでいます。当館のラベルは4段になっています。

K1E	別置記号（数字は地理区分）
216.2	分類番号
Ky6	著者記号
1	巻次・年次等

当館では、まず資料群ごとにコーナーを設け、それぞれのコーナーの中を資料の分野を表す分類番号順に、同じ分類番号の中は著者記号のアルファベット順に並べています。

ラベルの1段目に書かれているアルファベットの「別置記号」が、お探しの図書がどのコーナーにあるのかを示しています。

閲覧室には、次のコーナーがあります。

K：京都資料　京都に関する資料。ただし、府内自治体の刊行物はMKのコーナーにあります。

MK：京都官庁資料　京都府及び府内の自治体が発行した統計書や行政資料。

M：官庁資料　国や他府県の自治体が発行した統計書や白書、行政資料。

Y：吉田文庫　故吉田光邦氏の旧蔵資料。

PK、P：写真集コーナー

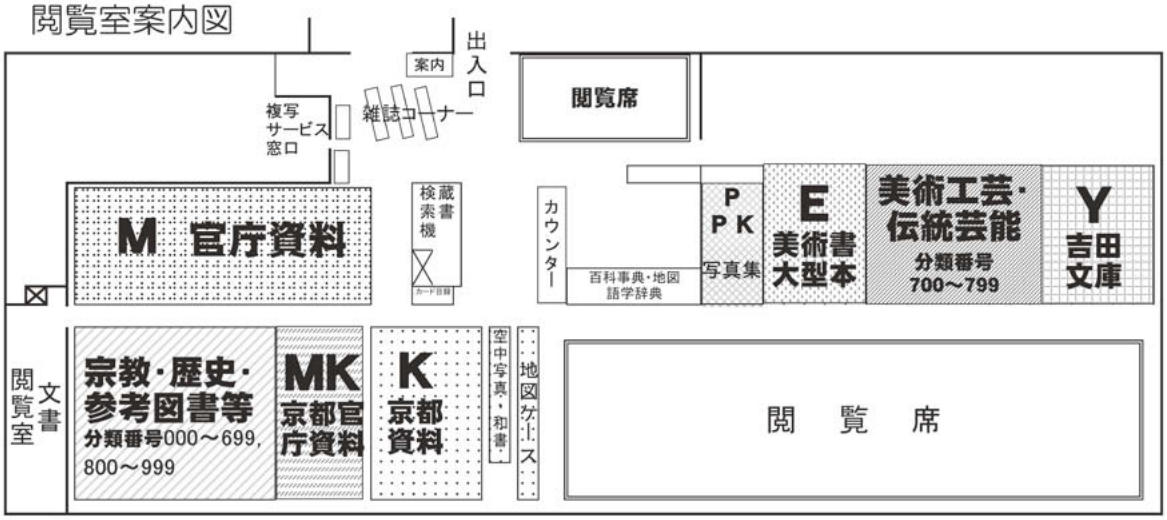
これ以外に、別置記号の付かない一般資料があり、美術工芸・伝統芸能と宗教・歴史・参考図書等の2か所に分かれています。

また、資料の形態による別置記号もあります。大型本の「E」、小型本の「S」、和装本の「和」などがあり、上記の別置記号と組み合わせて付けています。閲覧室では、同分野の資料を一箇所で見られるように、この記号は無視して一緒に並べていますが、一般資料の美術書は、特に図集等の大型本が多いため、利用しやすいよう別にコーナーを設けています。

K、MK、PKという別置記号の後には地理区分が付いています。これは、府内の各地域を数字で表したもので、検索時に地理区分を使って地域を絞り込むこともできますし、ラベルを見れば、どの地域について書かれているのか見当がつくというスグレモノです。京都に関する図書を探す際には参考にしてください。

実は、書庫の中ではもっと多くの別置記号が使われていて、毎年、新任職員や図書館実習生が来ると、別置記号に慣れるまでかなり苦労するようです。覚えるまでが大変ですが、資料を使いやすく、整頓しやすくするために考えられていて、先輩達の工夫が感じられます。

閲覧室で、図書の場所がわからなければ、お気軽にカウンターに声をかけてください。



総合資料館企画展

地域をむすぶ－京都府の交通史－

会　　期　**平成20年3月15日㈯～4月13日㈰（3月20日㈷、4月9日㈬は休館）**
午前9時～午後4時30分
会　　場　**京都府立総合資料館　2階展示室（入場無料）**

■列品解説　3月22日㈯、4月5日㈯　午後2時～　（事前申込不要）
■記念講演（府民講座）
◇**3月18日㈫**　午後2時～
櫛木 謙周 氏（京都府立大学教授）
演題「古代の都と交通」
◇**3月25日㈫**　午後2時～
高久 嶺之介 氏（京都橘大学教授）
演題「明治の京都縦貫道－京都宮津間車道の開さく－」
◇**4月3日㈭**　午後2時～
大塚 活美（当館職員）
演題「京都の鉄道文化史」
※受講ご希望の方は、受講希望日、氏名、電話番号を明記し、はがき、FAX又はメールでお申し込みください。＊満席で受講をお断りする場合のみ連絡します。
〒606-0823　京都市左京区下鴨半木町1-4　京都府立総合資料館庶務課
TEL 075-723-4831　FAX 075-791-9466　メール shiryokan-shomu@pref.kyoto.lg.jp

人とものが行き交う道。
地域と地域をむすぶ道。
今回の企画展は、近世から現代に至るまでの陸運、水運、そして近代からの鉄道、車道、戦後の自動車道など、京都府のさまざまな「道」の歴史を所蔵資料でたどります。

第１部　江戸時代の水陸のみち

長く「都」であった京都は、政治、経済、文化の中心であったため、多数の街道を通じて広範囲に及ぶ地域と繋がっていました。

人々は徒歩、牛馬、水力、風力を手段として水陸のみちを交通し、また、ものを運搬して生活を豊かにしてきました。とりわけ江戸時代は260年の平和の下、商品経済が発達し、交通が盛んになりました。

「陸の道」では、山城・丹波・丹後の街道が示されている国絵図、京都への入口がわかる御土居絵図、各種名所図会から街道の風景、行き交う人々の様子、街道を継ぎ立てられた伝馬の

▲老の坂（拾遺都名所図会）

▲伝馬切符綴（旧幕府関係資料）

▲宇治川の帆船（黒川翠山撮影写真資料）

▲鉄道会社規則書（上田家文書）

▲嵯峨停車場（石井行昌撮影写真資料：寄託）

▲比叡山全図

切符などを御覧いただきます。

「水の道」では、当時の物流の中心ともいうべき水運について、大動脈であった淀川、木津川、宇治川、高瀬川、大井川、由良川を絵図、古文書、写真などで御覧いただきます。

第２部　近現代の交通　ー　鉄道

幕末の開国とともに、蒸気機関による交通革命も日本に伝わりました。佐賀藩は蒸気船を建造し、蒸気機関車の模型を作り、維新政府は開港地と都市とを結ぶ鉄道の敷設を始めました。その後、鉄道は民間資本により各地に敷かれ、文明開化を象徴するものとなりました。

初期の鉄道は、旅客だけでなく、郵便、小荷物、貨物など、いろいろな物資の輸送に力を発揮しました。

一方、市街地では人力車が普及し、馬車鉄道などの敷設が始まりました。第三回内国勧業博覧会で登場した電車は、京都の街で国内初の営業運転を始め、人々の生活の足として全国の都市へと普及しました。こうして、鉄道が交通の中心となる時代を迎えます。

今回は、官設鉄道や私鉄に関する資料のほか、計画のみで実際には開通に至らなかった「幻の鉄道」、信仰や観光でにぎわう山のケーブルカー、20 世紀後半からの鉄道をめぐる動きなども御覧いただきます。

第３部　近現代の交通　ー　車道

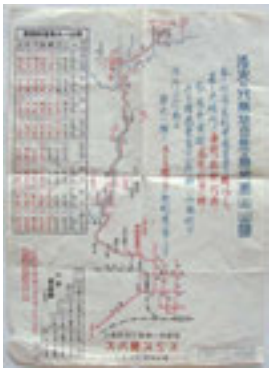
明治以後、より速く、より便利に、より多くの人や荷を運ぶため、それを可能にする「車」が走れる「車道」の整備が府内各地で繰り返し行われます。

車の形態が荷車、自動車、バス、トラックと変わるにつれて、それまで人馬が通るには必要がなかった、平らな道、緩やかなカーブ、トンネル、橋などを必要とするようになります。しかし、これらを京都府中・北部の険しい山地に整備するのは容易なことではありませんでした。

道路整備に着手した人々の想いを、明治の宮津車道開鑿関連資料、昭和の縦貫道整備関連資料、バスなどの乗りもの関連資料から御覧いただきます。

▲橋梁写真帖（王子橋）

▲京都宮津間車道開鑿線路変換願ニ係ル書類綴、丹後国車道開鑿之義ニ付御願



▲スミス銀バス路線図

▲綾部ジャンクションから舞鶴方向を望む（京都府道路公社の歩み）

歴史資料課の窓から

行政文書に見る京都

陵墓管理と京都府

1　京都府の陵墓

陵墓とは天皇や皇族を葬った所として、宮内庁が管理をしている墳墓などをいいます。大山古墳（仁徳陵古墳・大阪府堺市）などの巨大古墳が代表的ですが、1100年近くも都があった京都市とその周辺の府内には、明治天皇までの天皇陵を始め、皇族の墓も含めると非常に多くの陵墓が存在しています。また、その形も天智天皇陵（山科区御陵上御廟野町）のような終末期古墳から、陽成天皇陵（左京区浄土寺真如町）のような小さな盛土、後白河天皇陵（東山区三十三間堂廻り町）のような方形のお堂、近世の天皇のような石塔（月輪陵・東山区今熊野泉山町）まで、非常に多様です。

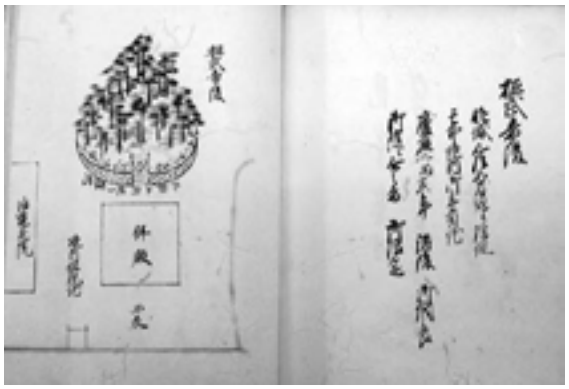
しかし、これらの陵墓が「発見」され、国の特別な管理下に置かれたのは、幕末から明治前半にかけての時期でした。近世後半の尊皇思想の広まりの中で、本居宣長・蒲生君平などによって歴代天皇の陵墓所在地の考証が行われます。さらに、文久2(1862)年からは、宇都宮藩による各陵墓の大規模な整備（文久の修陵）が行われ、明治維新を迎えます。天皇を押し立てて成立した明治政府も陵墓の整備と維持管理、さらに陵墓探索を続けていきます。

館所蔵の京都府行政文書（重要文化財）には、明治初年の陵墓管理に京都府がどのように関わってきたかが判明する資料が多数含まれています。

2　明治初年の陵墓管理

京都府行政文書の中の陵墓関係資料としては、陵域の確定などのために作成された絵図面である「御陵墓実測図」（御陵墓実測図１～３）が知られていますが、そのほかにも「皇子、皇女、皇妃取調書上控」（明4-34）や「御陵墓所所在書上」（御陵墓所所在書上1）、「御陵墓事件」（明12-29）、「御陵墓明細帳」（明13-27）、「京都府下御陵墓守長守部名簿」（明24-35）など府内各地からの上申や調査をまとめた多数の資料が残されています。

さらに、明治初年の「諸官往復書」や「政典」、「土木ニ関スル沿革調」（明2-31-2）などにも、泉涌寺を始めとする各陵への植林や修繕について



▲「桓武帝陵」の調書（明4-34）

の記事がみられます。これらの工事は京都府から大蔵省・内務省などに願いが出され、その許可の下で行われています。

例えば、「三御所御陵墓営繕録」（明12-31）は、明治12(1879)年の御所・仙洞御所・大宮御所と諸陵墓の修理について、経費と請負人を記録した簿冊ですが、簿冊の冒頭には、「大破ハ格別小破ノ分ハ直ニ修繕ヲ加エ費金精算帳ヲ以同省（宮内省）へ具状ス」などと記されており、小修理については府が行って宮内省から後払いで充当していることなどが判明します。

この当時、府県には陵墓を日常的に管理する守長･守部などと呼ばれる人々も所属しており、日常的な管理は府県の主導の下に行われていました。最終的な権限はもちろん国にありますが、実際に立案し執行する機能は府県が担っていたのです。中央政府の体制が整わない中、地域社会との関係を背景に、府県が企画段階から実務を行っていた状況がわかります。

3　おわりに

陵墓管理の権限は、この後、宮内省の仕組みが整うにつれて、法制上は府県から宮内省に移っていきます。しかし、その実態についての解明はまだまだこれからの課題です。

【参考文献】
外池昇 2000『天皇陵の近代史』（吉川弘文館）
鈴木良・高木博志編 2002
『文化財と近代日本』（山川出版社）

（歴史資料課行政文書担当　福島幸宏）

最近の収集資料から（平成19年9月～11月）

◆図書資料

〈京都〉

皇太后の山寺　山科安祥寺の創建と古代山林寺院　上原真人編　柳原出版　2007　313p

京のキリシタン史跡を巡る　風は都から　もう一つの京都　杉野榮著　三学出版　2007　127p　寄贈

平安時代山岳伽藍の調査研究　如意寺跡を中心として　古代學協會・江谷寛・坂誥秀一編　古代學協會　2007　9, 154p　図版55p　（古代學協會研究報告）　寄贈

京都地図絵巻　植村善博・香川貴志編　古今書院　2007　141p

祇園祭と戦国京都　河内将芳著　角川学芸出版角川グループパブリッシング（発売）　2007　214p　（角川叢書）

加茂町四季の植物　西澤公男著［刊］　2007　309p　寄贈

川島織物創業145年から163年（会社合併）までの歴史　新しい伝統の創造を目指して　社史編纂プロジェクトチーム編　川島織物セルコン　2007　241p　寄贈

伝統工藝再考　京のうちそと　過去発掘・現状分析・将来展望　稲賀繁美編　思文閣出版　2007　833, 37p

〈人文〉

図書館に関する基礎資料　平成18年度　国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編刊　2007　338p

稲盛財団　京都賞と助成金　第22回（2006）稲盛財団［編］刊　2007　349p　寄贈

生田神社史　生田神社編　国書刊行会　2007　29, 803p　図版16p　寄贈

平城時代史論考　角田文衛著　吉川弘文館　2007　4, 424p

平安勅撰史書研究　遠藤慶太著　皇學館大学出版部　2007　8, 332, 17p

新選仏像の至宝　上・下　毎日新聞社編刊　2006　2冊

ヴィクトリアアンドアルバート美術館所蔵初公開浮世絵名品展　太田記念美術館編刊　2007　172p　寄贈

〈官庁〉

橋梁寫眞帖　京都府［編］刊　［191－］　1冊

明治17年から45年の間に完成した京都府内の橋の写真帖。各橋について所在地、街道名、架設河川名、工事、竣工年月、寸法、構造の解説を付けています。

旅館サービス讀本　京都市産業部観光課編刊　1938　35p

京都市における旅館サービスの進歩改善を目指して京都市観光課から刊行された冊子です。表紙には色刷りで広重の東海道五十三次・三条大橋の図をあしらい、一般旅客へのサービスや外国人への接遇方法等について述べられています。

衆議院速記者養成所の88年　衆議院速記者養成所記念事業準備委員会企画・編集　衆友会　2007　104p　（衆友別冊）　寄贈

地球温暖化対策に関する世論調査　平成19年8月調査　内閣府大臣官房政府広報室［編］刊　［2007］　202p　寄贈

総合資料館府民講座のお知らせ

企画展「地域をむすぶ－京都府の交通史－」の記念講座を、3月18日㈫、25日㈫及び4月3日㈭に開催します。演題・講師等詳細は、4～5頁をご覧ください。

「東寺百合文書」第５巻を刊行

当館では、所蔵している国宝東寺百合文書の翻刻事業を行っています。今年度、その第5巻を刊行しましたので、概要を紹介します。

翻刻は、「イ函」「ロ函」のように名付けられたカタカナの函を、イ・ロ・ハ…の順に進めていますが、この巻には「ハ函」の151点を収めています。時期的には、南北朝時代の明徳元(1390)年から室町時代の宝徳3(1451)年までのもので、その8割近くがこの度、初めて活字化されるものです。また、ほとんどが若狭国太良荘（現在の福井県小浜市）と近江国三村荘（現在の滋賀県近江八幡市）に関するものです。

太良荘は鎌倉時代の建保4(1216)年に成立し、仁治元(1240)年に東寺領となった荘園で、早くから数多くの著作や論文が発表され、特に研究が進んでいるところです。

この巻にはその経済基盤を究明するための基礎資料となる年貢算用状のほか、室町幕府から時に応じて課される段銭の徴収に関する文書が含まれています。また、現地の百姓からの申状や領主東寺から幕府への申状には、当時の実状や考え方などが反映されており、中世荘園の様相を示すものであって、研究がさらに進展するものと期待されます。

三村荘は平安時代末期には成立していて、鎌倉時代の元徳2(1330)年に後醍醐天皇により東寺に寄進された荘園です。年貢の送進状と支配状（寺内での配分を行う文書）がセットになって残されており、年ごとの収入や支出の状態が把握でき、同荘を経済の面から解明する研究の一助となるものです。

第5巻の概要

書　名	「東寺百合文書　五」
内　容	ハ函151点
規　格	A5判
頁　数	452頁
定　価	9,500円（本体価格）
発行者	（株）思文閣出版
発行日	平成19年10月10日

友の会事務局から

◎20年度「友の会」会員募集

◇会　　費　年額　2,000円（4月～翌年3月）

◇申込方法　所定の申込用紙兼払込取扱票に必要事項を記入の上、会費を郵便局に払い込んでください。

◇受付期間　1月7日(月)～3月21日(金)

◇詳しくは友の会事務局（総合資料館庶務課内TEL075-723-4831）までお尋ねください。

◎　平成19年度の見学会を、11月1日、2日の両日実施し、100名の会員の皆さんの参加を得て、湖南市の善水寺、近江八幡市の市立資料館などを訪ねました。

1日は雨の中、2日は晴天の下とそれぞれに趣のあるひとときを過ごしました。

日　誌（平成19年9月～11月）

9.11(火)　府民講座（第44回）
9.29(土)～10.28(日)　第22回東寺百合文書展
10.11(木)　府民講座（第45回）
10.18(木)　府民講座（第46回）
11. 6(火)　第6回古文書解読講座（初心者A・Bコース）
11. 7(水)～11.9(金)　第6回古文書解読講座（初心者Aコース）
11.11(日)　府民講座（第47回）
11.13(火)、15(木)、16(金)　第6回古文書解読講座（初心者Bコース）
11.27(火)～11.30(金)　第6回古文書解読講座（一般Aコース）

利　用　案　内

休 館 日　祝日法に規定する休日、毎月第2水曜日、資料整理期、年末年始（12月28日～1月4日）

〔1月～3月の休館日〕
12月28日(金)～1月4日(金)、1月9日(水)、1月14日(祝)、2月11日(祝)、2月13日(水)、3月12日(水)、3月20日(祝)

開館時間　午前9時～午後4時30分

交　　通　京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④㊷　北山駅前下車
京都バス㊺㊻　前萩町下車

http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/

発行　京都府立総合資料館　〒606-0823　京都市左京区下鴨半木町１の４
京都府立総合資料館友の会（振替　01030-2-11991）　TEL(075)723－4831　FAX(075)791－9466

○本紙に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

古紙パルプ配合率100%再生紙を使用しています